

# マッチングアプリの利用実態と安全性に関するアンケート調査

## 調査概要

項目	内容
調査名	マッチングアプリの利用実態と安全性に関するアンケート調査
調査主体	当サイト(マッチングアプリ比較メディア)
調査対象	マッチングアプリの利用経験がある男女
調査期間	2026年3月15日～2026年3月28日
調査方法	インターネット調査(クラウドソーシングサービスを利用)
調査人数	300名
調査対象者 性別	男性145名、女性155名
調査対象者 年齢	18歳～50代
調査対象者 地域	全国

※本調査は当サイト独自調査です。

## 調査結果

### Q1. あなたの現在の年齢層を教えてください。【単一選択】

選択肢	回答数	割合(%)
18～24歳	75	25.0%
25～29歳	105	35.0%
30～34歳	60	20.0%
35～39歳	36	12.0%
40歳以上	24	8.0%

#### 【解説】

20代後半の利用者が最も多く、全体の35%を占める結果となりました。

次いで18～24歳が25%と続き、20代全体で6割に達しています。

一方で30代以上の利用者も合計で40%存在しており、幅広い年齢層にマッチングアプリが出会いの手段として定着していることが読み取れます。

### Q2. これまで最もよく利用したマッチングアプリはどれですか？

#### 【単一選択】

選択肢	回答数	割合(%)
-----	-----	-------

Pairs(ペアーズ)	114	38.0%
With(ウィズ)	66	22.0%
tapple(タップル)	48	16.0%
Omiai	36	12.0%
ブライダルネットなどその他婚活アプリ	21	7.0%
上記以外のアプリ	15	5.0%

#### 【解説】

利用経験のあるアプリとしては、Pairs(ペアーズ)を中心に、With(ウィズ)、tapple(タップル)、Omiaiといった知名度が高く会員数が多い定番のアプリに利用が集中している傾向が見られます。

これらは安全対策が比較的しっかりしている大手アプリに分類されますが、それでも利用者は一定の不安を抱えながら利用している現状が推測されます。

### Q3. マッチングアプリに月額いくらまでなら支払えますか？【単一選択】

選択肢	回答数	割合(%)
～1,000円	15	5.0%
1,001～2,000円	24	8.0%

2,001～3,000円	45	15.0%
3,001円以上	90	30.0%
無料でないと利用しない	126	42.0%

**【解説】**

「無料でないと利用しない」という回答が42%となりました。

これは、多くのアプリで基本料が無料に設定されている女性ユーザーの回答が多数反映されているためと考えられます。

一方で「3,001円以上」と回答した層も30%おり、月額4,000円前後の相場を受け入れている男性ユーザーの実態が現れています。

出会いに対する真剣度や予算感は男女で大きく二極化していることが分かる結果となりました。

**Q4. アプリを利用して「怖い」「危ない」と感じた経験はありますか？【単一選択】**

選択肢	回答数	割合(%)
実際に怖い・危ない体験をした	54	18.0%
未遂だが、トラブルになりかけた	84	28.0%
体験はないが、常に不安を感じている	102	34.0%
特に不安や危険を感じたことはない	60	20.0%

### 【解説】

「実際に怖い体験をした」「未遂だがトラブルになりかけた」という実体験を持つ人が合計で46%に上りました。

さらに「体験はないが常に不安を感じている」を含めると、全体の8割のユーザーが何らかの恐怖や不安を抱えながらアプリを利用していることが判明しました。

「特に不安を感じない」層は2割にとどまり、手軽に出会える反面、マッチングアプリに対する警戒心の高さが浮き彫りになっています。

## Q5. 遭遇した、または不安に感じる危険性・リスクは何ですか？

### 【複数選択】

選択肢	回答数	割合(%)
業者・サクラによる勧誘や詐欺	180	30.0%
デート時の身体目的やストーカー行為	150	25.0%
既婚者や恋人持ちの隠れ利用	120	20.0%
個人情報や顔写真の悪用・流出	90	15.0%
メッセージでの暴言や不快な言動	60	10.0%
合計(総回答数)	<b>600</b>	<b>100.0%</b>

### 【解説】

最も警戒されているリスクは「業者・サクラによる勧誘や詐欺」で全体の30%を占めました。

投資詐欺などのニュース報道の影響が大きいと考えられます。

次いで「身体目的やストーカー行為(25%)」「既婚者などの隠れ利用(20%)」と続いており、実際に対面した際のリスクや、相手の素性が偽りであることへの強い警戒感が示されています。

対人トラブルだけでなく、情報流出を懸念する声も一定数存在しています。

## Q6. アプリのビデオ通話機能を利用する際、危険や抵抗感を感じますか？【単一選択】

選択肢	回答数	割合(%)
部屋や顔の特定が怖くて利用しない	84	28.0%
録画・スクショされるリスクが不安	108	36.0%
相手の雰囲気があるので安心する	66	22.0%
機能を知らない・使ったことがない	42	14.0%

### 【解説】

ビデオ通話機能に対しては、「録画・スクショされる不安(36%)」「部屋や顔の特定が怖い(28%)」と、合計で6割以上の方がプライバシー面での抵抗感を持っています。

相手の雰囲気がわかることで「安心する」と好意的に捉える層は22%にとどまりました。

事前に相手の顔を確認できるメリットよりも、デジタルタトゥーとして残るかもしれないというセキュリティ面でのリスクを重く見るユーザーが多いことが分かります。

## Q7. 「危ない」ユーザーを回避するため実践している対策は何ですか？【複数選択】

選択肢	回答数	割合(%)
-----	-----	-------

すぐにLINEなど連絡先を交換しない	196	28.0%
昼間のカフェなど安全な場所で会う	168	24.0%
プロフィール内容や写真を細かく確認	140	20.0%
怪しいと感じたらすぐブロック・通報	112	16.0%
本人確認済みバッジがある人とだけ交流	84	12.0%
合計(総回答数)	<b>700</b>	<b>100.0%</b>

#### 【解説】

ユーザーが自主的に行っている自衛策としては、「すぐに連絡先を交換しない(28%)」がトップとなりました。

次いで「昼間のカフェなど安全な場所で会う(24%)」が挙げられています。

密室を避けたり、アプリ内のメッセージ機能でしっかりやり取りを重ねたりすることで、相手の信頼性を慎重に見極めようとする姿勢が伺えます。

プロフィール確認やブロック機能の活用など、基本的な自衛策も定着しているようです。